



各 位

平成18年11月24日

会 社 名 株式会社エス・サイエンス  
 代表者名 代表取締役社長 品田 守敏  
 コード番号 (5721 東・大証第1部)  
 問合せ先 常務取締役 太田 洋三  
 TEL (03) 3216 - 6431

### 平成19年3月期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成18年5月30日に公表しました平成19年3月期（平成18年4月1日～平成19年3月31日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 連結業績予想数値の修正

(1) 中間期の連結業績予想数値の修正（平成18年4月1日～平成18年9月30日）

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	5,800	300	350
今回修正予想(B)	4,230	490	430
増減額(B - A)	1,570	790	780
増減率(%)	27.1	263.3	222.9
(ご参考) 前中間期実績(平成17年9月)	3,928	24	52

(2) 通期の連結業績予想数値の修正（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	13,600	1,130	1,120
今回修正予想(B)	12,600	505	515
増減額(B - A)	1,000	625	605
増減率(%)	7.4	55.3	54.0
(ご参考) 前期実績(平成18年3月期)	8,910	154	1,195

## 2. 個別業績予想数値の修正

(1) 中間期の個別業績予想数値の修正 (平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	5,200	380	420
今回修正予想(B)	3,740	1	100
増減額(B - A)	1,460	379	320
増減率(%)	28.1	99.7	76.2
(ご参考) 前中間期実績(平成17年9月期)	2,428	86	137

(2) 通期の個別業績予想数値の修正 (平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	13,300	1,000	1,030
今回修正予想(B)	12,300	830	900
増減額(B - A)	1,000	170	130
増減率(%)	7.5	17.0	12.6
(ご参考) 前期実績(平成18年3月期)	6,261	522	748

## 3. 修正の理由

(連結)

連結の中間期においては、当初の業績予想に対し、売上高・経常利益及び当期純利益が下回ることとなりました。

修正の主な原因は、ニッケル事業においてはLME価格の高騰により増収・増益となりましたが、不動産事業において当中間期に予定しておりました大型社有物件の販売がいずれも下期計上予定となったことと、関係会社である(株)東理ホールディングスの当期純利益が当初予想を下回り純損失となったため持分法による純利益が下回ったことによるものであります。

通期の予想は、関係会社である(株)東理ホールディングスの当期純利益が当初予想を下回ることになり、経常利益及び当期純利益は、前回予想と比較して下回ると予想しております。

(個別)

個別の中間期においては、当初の業績予想に対し、売上高・経常利益及び当期純利益が下回ることとなりました。

修正の主な原因は、ニッケル事業においてはLME価格の高騰により増収・増益となり、又関係会社からの受取配当金があったものの不動産事業において、当中間期に予定しておりました大型社有物件の販売がいずれも下期計上予定となったことと、特別事業における有価証券評価損と教育事業におけるリストラ関連費用等の計上により経常利益が減額となりました。純利益は、投資有価証券売却益及び前期損益修正益等がありました。経常利益の減額の影響により予想を下回りました。

通期の予想は、当中間期における減収減益の要因があったものの、下期において不動産事業における大型社有物件をはじめとする販売により増収増益が見込まれますが、ニッケル事業におけるLME価格の下落を予想し、経常利益及び当期純利益は、当初予想を若干下回ると予想しております。

(注) 上記の業績見通しは、現時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。

以上